

「(仮称)新・港区教育史」の名称等について

1 通史編、資料編、くらしと教育編の総称

- ・候補：港区教育史

【考え方】

- ・教育史が今回の編さんと同様に数十年の期間を経て改訂されることも見越し、昭和62年刊行時の総称を継続して使用していくものとし、今後の改訂の際も「港区教育史」と一貫した総称を用いるものとする。
(今回の成果物は、昭和62年刊行の『港区教育史(上・下)』、平成9年刊行の『港区教育史(資料編1、2)』に引き続き刊行する。)
- ・シンプルに「港区教育史」とすることで、区民にとってわかりやすい名称とする。

- ・他の候補：新港区教育史

※図書館等で検索をした際、「新」と付いていることで以前の刊行物と区別が付きやすいとの考え方もある。このことについては、書誌(巻)の名称に章の内容を入れることで、図書館等で検索した際、書誌データ上でも既刊教育史との区別は可能となる(巻の名称についての詳細は、下記の「2 巻の名称について」にて説明)。

<参考1>編さん中の港区史の名称
「港区史」

<参考2>他区教育史の名称
別紙資料4-2「23区教育史刊行状況」参照

2 巻の名称について

(1) 通史編

- ・港区教育史 通史編1 港区の風土と教育のあゆみ
- ・港区教育史 通史編2 明治期の教育 上
- ・港区教育史 通史編3 明治期の教育 下
- ・港区教育史 通史編4 大正期の教育
- ・港区教育史 通史編5 昭和期の教育 上
- ・港区教育史 通史編6 昭和期の教育 中

- ・港区教育史 通史編 7 昭和期の教育 下
- ・港区教育史 通史編 8 平成期の教育

(2) 資料編

- ・港区教育史 資料編

(3) くらしと教育編

- ・港区教育史 くらしと教育編

【考え方】

- ・図書館等での配架や検索のしやすさから、通史編には通番を振り、同章で2巻以上になる場合（上記の案においては通史編2、3のような場合）は、さらに番号を振ると通番と混同するおそれがあることから、上・下で表現する。
- ・通史編に章の内容・時代を表す名称を加えることで、書誌データからも既刊の港区教育史との区別が明確となり、図書館等での検索時でもわかりやすくするとともにどの時代の内容がどの巻で書かれているか明確にする。
- ・「通史編」「資料編」「くらしと教育編」の並びを踏まえ、書籍の背表紙に印字した際も必要な情報を残しつつすっきりとした印象を与える。

※他の候補：港区教育史 通史編 序章 港区の風土と教育のあゆみ（通巻1）

総称 + 編名 + 章名 + 章タイトル + 通巻番号

<参考1> これまでの港区教育史

- ・港区教育史（昭和62年刊行） 上巻、下巻
- ・港区教育史（平成9年刊行） 資料編一、資料編二

<参考2> 配架時のイメージ

※cmは概算。紙の仕様により多少前後する場合があります。

※背表紙の表記はあくまで例示（イメージ）です。

